



別れはいつも涙が止まりません。

—民泊受け入れ実践者 山口 豊美さん(南有馬町)—

始めて民泊受け入れをした時はどうでしたか？

最初はドキドキでした。子どもたちは、話してくれるのかな。ご飯は食べてくれるのかな。寝具は足りるのかななど、心配事はつきませんでした。1度受け入れてしまうとこれぐらいなら大丈夫だと思い、楽しくなりました。

今では、次いつ来るのだろうと家族みんなで首を長くして待っています。

どんな思い出がありますか？

私はトマト農家で、来ていただいたお客さんには、トマトの収穫や袋詰め作業の体験をしてもらっています。中にはトマトが嫌いな子どももいるのですが、1度食べると「おいしい、おいしい」って食べてくれるのです。

そして、その後も家で食べてますと手紙がきました。また、トマトづくりに対する気持ち、思いが分かって良かったという言葉をもらうと、生産者として嬉しい限りですね。あと、普段まったく話をしなかった子が、うちに来て話をしてくれるようになりました。一緒にいた生徒たちはびっくりしていて、始めて声を聞いたって驚いていましたよ。そして、その子のお母さんからお礼の電話がきて、喜んでいる声を聞くと本当に民泊をして良かったなと思います。

山口さんにとって民泊とは？

民泊で金銭的にすぐもうかるということはありませんが、ありあまるぐらいの楽しみをもらっています。今まで何人も受け入れしてきましたが、毎回涙が止まりません。こればかりはなれないですね。

私にとって民泊は、今では欠かすことができない生活の一部となっています。



民泊の屋号は「笑福（えみふく）」。「笑う門には福来る」のことわざから命名。



送られてきた手紙やメッセージを見て、いつも元気をもらっているそうです。



本物の「体験」には
本物の「感動」がある！

あなたも感動体験を味わいませんか

体験民泊は、お盆やお正月に親戚を迎え入れるように観光客を宿泊させるもので、特別なものではありません。旅行者は、田舎の飾らない普段の生活を楽しみに来るのです。本市の体験民泊は、握手で始まり握手で終わります。最初は、緊張と不安の握手。帰りは、感謝と感動の握手にかわります。旅行者が行った貴重な体験、自然豊かな風景や新鮮な食べ物、そして受け入れをしてくれたお父さん、お母さん、家族のことを一生忘れることはありません。この思い出づくりに一役買っているのが、「農林漁業体験民泊」であり、「民泊受け入れ家庭」の皆さんです。

あなたも、この地域を元気にする体験民泊への取り組みを始めませんか。興味のある人は、お気軽にご連絡ください。また、ちょっと話だけでも聞いてみたいという人も大歓迎です。

商工観光課 ☎050(3381)5032

または 南島原ひまわり観光協会 ☎0957(76)1800

E-mail: kankou@himawarinet.ne.jp

南島原ひまわり観光協会

検索

※観光協会ホームページでブログ・ツイッター・フェイスブックで情報発信中

twitter

@himawarikankou

facebook

Himawarikankoukyoukai Minamishimabara



南島原ひまわり観光協会
キャラクターひまわり四郎くん



感動が生まれる 農林漁業体験民泊！

市では、基幹産業である農林漁業など、地域の特徴を生かした体験型観光「農林漁業体験民泊」を推進しています。

本市には、長い歴史の中で育まれた文化や山の幸、海の幸、美しい自然など豊かな大地の恵みがあります。私たちのありのままの生活でお客さんを迎え、農家や漁家などへ宿泊し、農林漁業体験を行います。

普段どおりの生活で飾らない本物との出会いがお客さんに感動を与えており、“おもてなし”の心を大切に「農林漁業体験民泊」の推進を図っています。

◀台湾からのお客さん。また来てね！



◀お客さんを受け入れる時には、こののぼりしを玄関先などに掲げています。



「観る」観光から「体験型」観光へ

現在、田舎暮らしへの関心が高まっています。

都会の生活では、仕事に追われるストレス、家族の絆や地域との関わりの希薄化などが問題となっていて、ゆとり、やすらぎ、そしてふれあいを求める人が増えてきています。旅行者は、訪れた地域の人々との交流の中で、「癒し」を感じ、明日への生きる活力にしようとしているため、体験民泊に注目が集まっています。

旅行業界でも「観る」観光から「体験型」の観光へと形態を変えてきています。



ようこそ！南島原へ

南島原ファンが増加中

今年度の体験民泊は、4月17日、香川県の修学旅行を皮切りに5月から6月末にかけて、兵庫県、大阪府、神奈川県、京都府、滋賀県の中学校修学旅行生を延べ4,099人22校の生徒を受け入れました。そして、秋には初めての高校の修学旅行生が埼玉県より4校訪れます。

昨年はマカオからのお客さんを受け入れ、今年度は、台湾からのツアー客が定期的に訪れています。香港やその他の国々からもたくさんの方の問合せがきており、体験民泊がグローバルになってきました。また、年々リピーターも増え、南島原のファンが増えてきています。



握手でお出迎え